

平成 29 年(2017 年)11 月 10 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 末 広 亨

## 平成 29 年度(2017 年度)全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者のみなさまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4 月 18 日に実施しました 6 年生の「全国学力・学習状況調査」結果の分析を行いました。学力調査の結果は、国語・算数ともに全国平均を上回っており、概ね良好でした。しかし、更なる努力が必要な項目もありました。課題については、校内で共有し、改善に向けて取り組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた＜伸ばしたい点と今後の取り組み＞をまとめましたので、ご家庭でも話題にさせていただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、豊能町教育委員会による町全体の分析結果は、本町の HP にて公表されています。また、全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所の HP で公表されています。それぞれご覧ください。

### 1. 学力調査の結果より

#### 国語

国語 A (知識) 国語 B (活用) とともに全国平均正答率を上回る結果でした。児童質問紙の「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに全員が肯定的な回答をしています。子どもたちが、国語を自分の将来に役に立つ大切な勉強と捉え、前向きに国語の学習に取り組んでいることが分かります。

#### 〔A 問題より〕

○文章の中から必要な情報を見つけて読む、俳句の情景を捉えるなど、「読むこと」に関する問題がよくできていた。

○漢字の読みは正答率 95%以上とよくできていた。

●漢字を正しく書くことについて課題が見られた。(例:「参加たいしょう」「きぼう者」の下線部を漢字で書く)

●手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題が見られた。

#### 〔B 問題(主に活用)より〕

○選択式の問題の正答率は全国平均を大きく上回り、よくできていた。

●「八十字以上、百字以内にまとめて書くこと」「理由を二つ取り上げて書くこと」など字数制限や複数の条件を満たして解答する記述式の問題に課題が見られた。

#### 算数

算数 A (知識) 算数 B (活用) とともに全国平均正答率を上回る結果でした。児童質問紙の「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」という質問に対する肯定的な意見の割合が全国に比べて 15%ほど高く、算数の勉強に興味を持ち、意欲的に取り組んでいることが分かります。「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」という質問に対しても、肯定的な意見が全国に比べ 10%以上高かったです。

本校がユニバーサルデザインの授業をめざし、少人数・習熟度別指導や T T 授業の取り組みによって、主体的な姿勢で学習をしていることが分かります。

#### 〔A 問題より〕

○平均正答率は 82%で、全問正解者が 40%であった。府や全国の全問正解者が 20%ほどであるところと比べて、よくできていた。

○「数と計算(四則演算)」「量と測定(重さ・長さ・面積等)」「数量関係(二次元表等)」の領域で全国平均を上回った。

●図形問題に課題が見られた。(例:正五角形の性質を理解する。)

#### 〔B 問題より〕

○全ての領域で全国平均を上回った。特に「数と計算」「数量関係」がよくできていた。

●きまりや求め方を、言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる問題の無答率が高かった。

#### ＜伸ばしたい点と今後の取り組み＞

##### ① どの子もわかる授業づくり

- ・ユニバーサルデザインの視点に基づいた「わかる授業づくり」を行う。
- ・実態把握に基づく支援の工夫を取り入れた授業づくりを行う。

##### ② 主体的・対話的な学びの育成

- ・子どもの主体的な学びを大切にし、意欲的に学ぶ姿勢を育成する。そのために、例えば、国語ではキーワードに印をつけたり、算数では図形問題に補助線を引いたりするような操作活動を取り入れ、自分なりに考える力を育てる。
- ・自分の考えを持ち、ペアやグループ(班)で意見交流する場面を多くつくり、複数の視点から物事を考える力を育てる。

##### ③ 「書く力」の育成

- ・事実・理由を根拠に、自分の意見を書いたりまとめたりする学習を充実させる。
- ・思考の過程がわかるノート作りをより充実させ、考え方や求め方、理由を式や言葉で表現(書く)する力をつける。

## 2. 学習状況調査の結果より

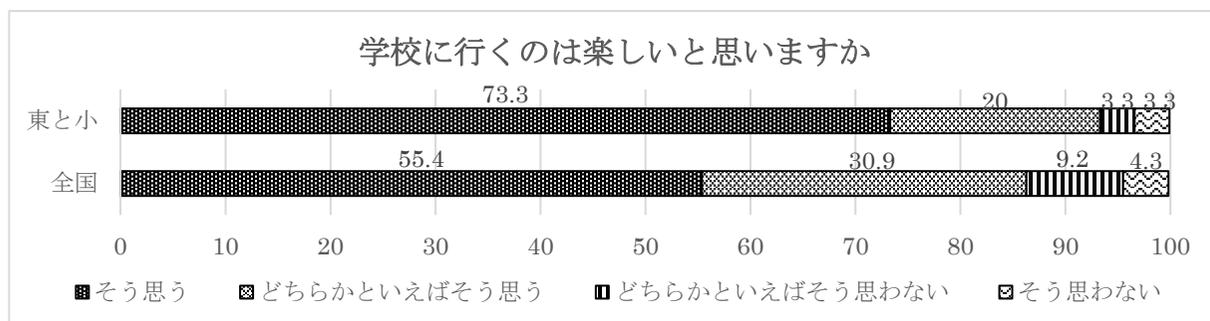
子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識を調査したもので、次のような特徴が見られました。

### 学校生活について

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校で、友達と会うのは楽しいと思いますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」などの項目で肯定的評価の割合が大変高かった。

子どもたちが友だちとの関わりを大切にすると同時に、日々の学校生活や行事の中で達成感や充実感を味わい、先生との信頼関係のもと充実した学校生活を送れていることが分かる。

一方、少数ではあるが、学校に行くのは楽しいと思っていない児童もいるので、一人ひとりを大切にしたい集団づくりを進めていきたい。



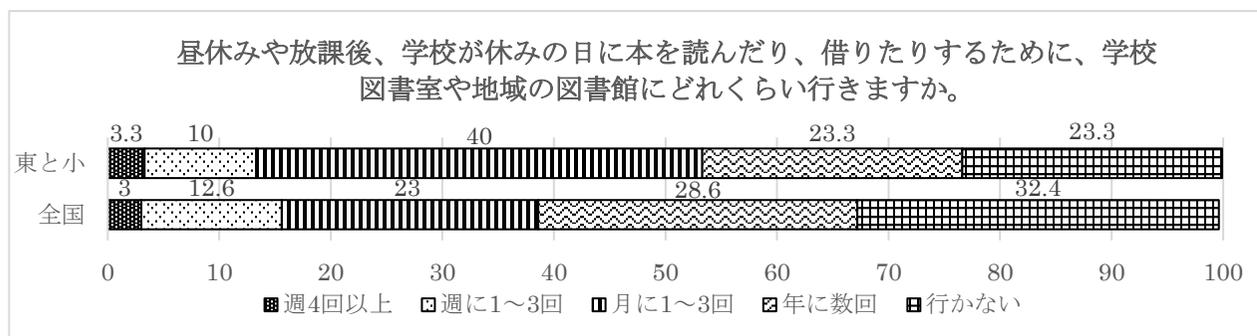
### 家庭生活・読書・学習習慣について

○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」

肯定的な意見の割合が大変高く、全国に比べ10%以上高かった。保護者の方が子どもの話に耳を傾けてくださっていることで、子ども達が安心して話すことができているといえる。

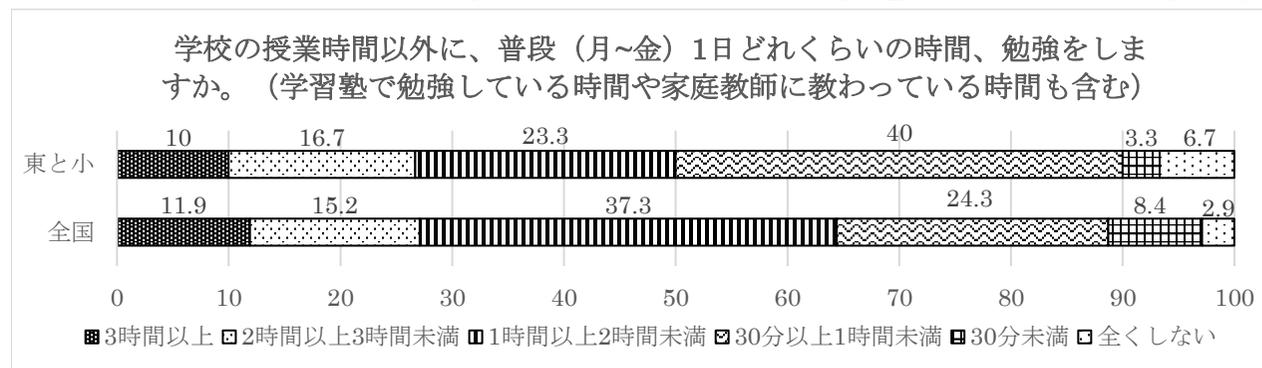
○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」

学校図書館や地域の図書館をよく利用している。朝読書の取り組みや、司書の先生との連携によって子どもたちは普段から読書に親しみ、学校図書館や地域の図書館から本を借りることが習慣づいていることがわかる。



●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」

普段の日、1時間以上学習する子どもの割合が全国に比べると少なめで、土曜・日曜など学校が休みの日の学習時間も同じ傾向にある。学校、家庭と連携して取り組んでいきたい。



### 授業について

○「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくおこなっていましたか」「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」などの項目で肯定的評価が高く、わかる授業づくりが進んでいると思われる。

●「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自ら取り組んでいたと思いますか」の項目は、全国平均を下回っている。授業にまじめに取り組んではいるが、受身であることがうかがえる。子どもが主体的に取り組める授業づくりを進めていきたい。

<伸ばしたい点と今後の取り組み>

- ① 互いに認め合い、支え合うあたたかい集団作り
  - ・仲間づくり（集団づくり）を進め、児童が安心できる居場所のある学級・学校を目指し、学力向上につなげていく。
  - ・クラスでの集団づくりや異年齢との交流を通して、「認めてもらった」「感謝された」という経験を積み、自己肯定感・自己有用感を高める。それと同時に、相手の立場を考えられる心を養う。
- ② 子どもたちが「ともに学び・活動する喜び」を味わえるように、子どもたちが主体的に取り組める授業づくりを進める。